

多職種連携ポータルサイト（転院支援システム）活用事例

多 職 種 連 携 ポ ー タ ル サ イ ト 検 討 部 会
(https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/zaitakuryouyou/suishinkaigi/portalsite02.html) の委員のうち、一部の方に実際に転院支援システムを使っていたいただき、システム上でマッチングした具体的な事例や、システムを使ってみたメリットなどを伺い、いただいた回答を以下のとおりまとめました。転院支援システム利用のご検討にお役立てください。

社会医療法人社団愛有会 久米川病院 社会福祉相談室係長 横山 真樹子委員

○システムでマッチングした事例

- 年齢：87 歳
 - 性別：男性
 - 症状・疾患：低体温、ウェルニッケ脳症
 - 転院目的：在宅調整
 - システムを使った転院調整がうまくいった理由
- ①双方忙しい中での調整になるため、電話がつながりにくい、すれ違いなどで時間が取れないことが多かったが、転院支援システムを利用することで時間の束縛がなくなり、ストレスが減ったとともに、空いた時間で他の業務に取り掛かることができ、作業効率が向上した。
- ②電話での調整だと、基本が口頭でのやり取りになるため、聞き間違いや、忘れて抜けてしまうことがあった。転院支援システムを利用することで、文字でのやりとりとなり、相手方に確実に伝えることができ、何度でも見直しが可能となることで、調整ミスが防げる。
- ③ある程度の内容が記載されているので、その時点で受けられるかどうかの判断ができ、時間の短縮につながった。

○システムを使ってみたメリット

- ・相談している相談員が電話に出られないときでも調整がすすめられ、すれ違いによるタイムラグが減る。
- ・口頭ではなく文字に残るため、再確認ができる。
- ・ベッドが空いているときに逆アプローチの情報が見られるため、積極的な受入体制ができる。

○どのようなケースだと、システムを使った転院調整が円滑に行われると思うか。

- ・医療圏外への転院
各病院の特徴が分からず、すべてに電話をかけると相当な時間がかかってしまうので、転院支援システムは非常に合理的である。
- ・家族の希望が具体的な場合
リハビリを週何回以上行いたい等、細かい希望があるときに条件を付けてマッチングが可能。
- ・困難ケース
新型コロナ感染症後や身寄りなし、腸瘻など受入先が少ないケースは通常何件も病院を当たらなければいけないが、転院支援システムを利用することで幅広く受け入れ先を探すことができる。

○システムでマッチングした事例

- 年齢：84歳
 - 性別：男性
 - 症状・疾患：新型コロナウイルス感染後遺症 褥瘡
 - 転院目的：医療療養
 - システムを使った転院調整がうまくいった理由
- ①電話での入院調整は口頭でもらった情報を文書にして残す作業を行うが、初めから患者情報として基本情報や特記事項をメールで情報をもたらえるのでありがたい。
- ②入院判定→結果の返却がクリックで済むので早く返事ができる。電話での返事はつながらない等手間や時間がかかることが多い。細かい確認が必要ないケースは有効に思う。
- ③メッセージを使用することで早く連絡が伝わり家族からの連絡→ソーシャルワーカー面談実施。結果的に早くの入院案内に繋がった。

○システムを使ってみたメリット

- ・入院判定→結果の返却がクリックで済むので早く返事ができる。電話での返事はつながらない等手間や時間がかかることが多い。細かい確認が必要ないケースは有効に思う。
- ・メッセージを使用することで早く連絡が伝わり家族からの連絡→ソーシャルワーカー面談実施。結果的に早めの入院案内に繋がった。
- ・患者情報を項目ごとに入力することにより情報に漏れがなく対象者（患者）を詳細に把握することが可能。

○どのようなケースだと、システムを使った転院調整が円滑に行われると思うか。

- ・ソーシャルワーカーや医療連携職の方等、転院相談を行う職種や経験年数に関係なくシステムを使用することにより円滑に転院調整を進めていくことが可能になる。